



郷土の味を学ぶ

6月29日、恵那西中学校で朴葉ずしづくり体験が行われました。講師に「恵那の味・つたえ隊」メンバー、ハンズ武並から中崎さん、斉藤さん、原田さんを迎え、生徒らは指導のもと、いりたまごやシーチキンの煮物を調理し、酢メシは牛乳パックの底を使用して正方形を型どり、具を乗せ、慣れない手つきで朴葉を包みました。試食では「煮物作りが大変だったけど、また作ってみたい」とでき上がった朴葉ずしを満足気に味わいました。

でき上がった具を彩りよく盛り付ける生徒ら



火縄銃の重さにびっくり

岩村歴史資料館に収蔵される火縄銃を使った社会科の授業が、6月23日、串原小学校で行われました。

授業では、織田信長が鉄砲隊の威力で武田勝頼を破った長篠の戦いをはじめ、火縄銃伝来の歴史や仕組みを学んだほか、本物の銃を持って射撃の作法を体験しました。児童らは、本物の火縄銃の重さにびっくり。手作りのかぶとをかぶり、天下統一を成し遂げた織田信長の時代に思いをはせました。

本物の火縄銃を使い、学習する串原小児童ら

防災意識の高揚に

7月2日、恵那市消防本部前と岩村消防署前で恵那市少年消防隊第1回活動が行われ149人の隊員が参加しました。

岩村消防署では、南部地区の39人が消防署員指導のもと、救助訓練としてロープの結び方や実際に綱を渡る渡過訓練、救助器具の説明を受け、消化訓練では実際にタンク車を使用した放水体験を行いました。また災害講話では、火事を未然に防ぐことの大切さを学び、災害への防災意識を高めました。

ホースへの水圧に絶えながら標的を定める隊員



田んぼの生き物み～つけ

6月27日、東野の水田でまもろ米教室が開かれ、東野小学校4年～6年生児童17人が、田に住む生き物を調査しました。水田は、えな土地改良区が省力化や環境に優しい農業のため不耕起栽培に取り組む実験田で、教室は児童らに環境や米づくりの大切さを学んでもらおうと計画。児童らは、田んぼの泥をすくい、広い容器で泥を広げて中にある糸ミズズなどを確認しました。不耕起水田と通常耕作の水田との違いについても調査しました。

田んぼの泥の中から生き物見つける東野小児童



ふれあう心で地域を守る

7月2日、串原のサンホールくしはらでくしはら防犯ふれあい教室が開催され、約250人が参加しました。全国的に凶悪な犯罪や事故が増え、近くでも発生している中、串原青少年育成実行委員会が、防犯意識を高め、地域で協力し合って安全を守ろうと開催。県警たんぼぼ班の連れ去り防止の寸劇、「地域ぐるみ安全宣言」の後、パトロールカーや白バイなどに実際に触れた後、県警音楽隊の演奏を楽しみ、地域のきずなを深めました。

防犯ふれあい教室で白バイなどに実際に乗る子どもたち



カワゲラ見つけたよ

6月28日、岩邑小学校4年生の児童59人が岩村川の水質を調査する「カワゲラウォッチング」に参加しました。県と恵那土木事務所が進めている事業の一環で、水質指標生物に指定されている水生生物を採取し、水質判定を行いました。川に入った児童たちは、水中を観察する「たこめがね」や網などを使って27種類、約250匹の生物を採取。きれいな川に生息するカワゲラが10匹見つかり、川が比較的きれいであることを知りました。

はだして川に入り水生生物を採取する児童



児童館がやってきた

7月13日、上矢作保育園で今年から活動を始めた移動児童館「きらきら」が開催され、未就園児の親子や保育園児、約60人が参加しました。移動児童館は、大井・中野の両児童センターが、健全な遊びを通して、子どもたちの健康づくりや豊かな心を育てる活動を広い地域に知ってもらうため計画。子どもらは、母親クラブ「くれよん」の人形劇に登場する動物や青虫のお話に夢中になったほか、手遊び、おもちゃ作りを楽しみました。

手遊び・リズム遊びを楽しむ子どもら



抹茶茶わん作りに挑戦

7月4日と10日、山岡陶業文化センターで山岡中学校1年生44人が陶芸教室を行いました。山岡中学校では、毎年1年生が陶芸学習を行っており、今回は抹茶茶わんに挑戦しました。豊田市の木塚博長さんの講師のもと、土台作りから粘土を紐状に伸ばして、おわん部分を作り上げる作業を習いました。生徒らは、思うように形が整わず、何度も粘土を付け直すなど苦戦しましたが、10月の焼き上がりを想像しながら作業に取り組みました。

何度も粘土を積み上げながら慎重に形を作る生徒ら

一休さんになれたかな

7月22日、笠置町長楽寺で公民館講座「一休さんしてみよう」が開催され、小学生など約20人がお寺の仕事を体験しました。

参加者は、講師の栗原宗言住職からお経を読むこと、座禅、ぞうきん掛け、写経など普段ではあまり経験することのできないお寺の仕事を体験した後、精進料理を食べて気分は一休さん。お寺は初めてという子どももあり、座禅などから何も考えない時間やゆったりとした時間の大切さを学びました。

座禅を組みお寺の仕事を体験する子どもら



矢作川がとりもつ縁

7月11日、明智文化センターで明智町女性団体A F輝きと、一色町女性の会との交流会が開催されました。これは、昭和52年に明智町と矢作川の下流域にあたる愛知県幡豆郡一色町が姉妹提携を結び、女性団体の交流活動として行われている事業です。一色町の川部生涯学習課長は「長い間培ってきた付き合いを今後も続けていきたい」とあいさつ。交流会終了後、お互いの地域の情報を交換しながら大正村散策を楽しみました。

ボランティアガイドのもと大正村を散策



ドイツとスポーツ交流

日本のスポーツ少年団のお手本となったドイツスポーツ連盟のスポーツユースの団員10人が、7月21日から25日まで交流事業で恵那市を訪れました。一行は、市内にホームステイし、少年団や恵那高生徒と交流しました。恵那スケート場でインラインスケートを楽しんだほか、中山道広重美術館で版画刷り体験、自分たちで打ったそばで昼食、書道体験、日本大正村、岩村町歴史の町並みの散策など恵那市で日本の文化を満喫しました。

ホストファミリーとそば打ち体験をする団員④



地元の新鮮野菜を食べよう

7月13日、長島小学校で農産物生産者と児童の交流事業が行われました。

講師には、らっせいみさと直売振興会、学校給食センター栄養士、農業改良普及センター技師を迎え、5年生103人が「安全・安心な食材」について講義を受けました。

給食には、らっせいみさと直売振興会から、新鮮な地元野菜を使用したカレーライスが配られ、児童らは「野菜の味がして、いつもよりおいしい」と一緒に味わいました。

使われた野菜の話聞きながらカレーを味わう児童ら